

暖地系ニンニクの栽培について

三浦半島地区事務所

ニンニクは世界の3大スパイスの一つとして親しまれているユリ科の野菜で、わが国でも安定した消費需要があります。また、アメリカ国立がん研究所が作成している「デザイナーフーズピラミッド」では最上位に位置し、含硫アミノ酸を中心とした各種機能性成分を豊富に含むことから健康野菜としても注目されています。加えて、ニンニク栽培は、その労働生産性の高さや軽労化の面などから三浦半島地域への導入も期待できるとして、平成18年度から栽培試験に取り組んでいます。

[試験結果の概要]

平成20年10月15日種球植え付けで、暖地系品種‘平戸’（図1）、‘嘉定’、‘香川早生’、寒地系品種‘福地系ホワイト六片’の計4品種を供試しました。植え付け後は、いずれも良好に生育しましたが、寒地系の‘福地系ホワイト六片’は、暖地系品種に比べりん片数は少ないが1つのりん片が大きく（表1）、年により未分化株が多発したり、りん片の大きさが不揃いになったりしました。栽植密度を変えた場合の球重は、密植（15×15cm）すると小さくなりますが、標準（20×20cm）と粗植区（30×30cm）では差は認められませんでした（表2）。



図1 自然乾燥後の‘平戸’
（撮影：平成21年6月）

表1 各品種の特性(H20年度)

品種	球重 (g)	球径 (cm)	球高 (cm)	裂球 (%)	未分化 (%)	りん片数	最大りん片重 (g)
平戸	93.1	6.8	4.1	0	0	10.1	13.8
嘉定	78.1	6.2	3.6	0	15	9.2	12.9
香川早生	73.8	6.2	3.6	0	0	9.5	11.3
福地系ホワイト六片	84.2	6.2	4.2	5.0	0	6.7	17.1

栽植密度：20×20cm（10月15日植付、5月13日収穫～6月11日まで自然乾燥）。

表2 栽植密度が球重等に及ぼす影響(H20年度)

品種	栽植密度 (cm)	球重 (g)	球径 (cm)	球高 (cm)	裂球 (%)	未分化 (%)	りん片数	最大りん片重 (g)
平戸	15×15	76.3	6.4	4.2	45.0	0	9.1	13.3
	20×20	106.1	7.1	4.0	33.3	0	10.3	14.2
	30×30	109.6	7.3	4.2	41.2	0	10.8	15.1

10月15日植付、5月13日収穫～6月11日まで自然乾燥

[栽培のポイント]

三浦半島地域で栽培する場合には、以下の点に注意してください。

- (1) 春腐れ病が多発すると大幅な減収になります。登録のある薬剤を定期的に予防散布して下さい。
- (2) 収穫適期は短く、遅れると裂球が急増します。下葉が3、4枚枯れる頃から試し採りして判定して下さい。
- (3) 乾燥施設がない場合は納屋等で通風や日焼けに注意して自然乾燥させます。ただし、収穫時期が梅雨期と重なるため、カビ等が発生し商品価値を損みます。生ニンニクとして早めに出荷することも可能です。